

二〇一七年度 桐朋女子中学校入学試験 (A入試)  
筆記試験 (国語)

【注意】

- 一、問題冊子が配られても、開いてはいけません。
- 二、問題冊子は1ページから16ページまであります。
- 三、「はじめなさい」と言われたら、まず、問題冊子の表紙と解答用紙二枚に、それぞれ受験番号と氏名を書きなさい。
- 四、答えは、すべて解答用紙に書きなさい。
- 五、問題冊子に書きこみをしてはいけません。
- 六、「やめなさい」と言われたら、すぐに筆記用具をおき、解答用紙も問題冊子も表を上にして、机の上におきなさい。
- 七、試験時間は四十五分です。

受験番号

氏名

一、次の①～⑯の——線部のカタカナを漢字に直しなさい。送りがなが必要な場合は送りがなもつけなさい。また⑯～⑳の——線部の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

⑯ ⑰ ⑮ ⑯ ⑪ ⑦ ⑤ ③ ①  
力 カンダン の 差 が 大 き い  
彼 の 夢 は ベンゴシ に な る こ と だ  
横 浜 に キコウ す る 外 国 の 客 船  
山 の チュウフク で 一 休 み す る  
タダチニ 職 員 室 に 来 て く だ さ い  
ウタガウ こ と が で き な い 人  
ヒコウキ に 乗 る  
文 章 全 体 の コウセイ を 考 え る  
相 談 室 を 設 け る  
万 全 に 準 备 し て 運 動 会 に の ぞ む

⑳ ⑰ ⑯ ⑯ ⑫ ⑩ ⑧ ④ ②  
夕 日 が 空 を 赤 く ソ メル  
景 気 回 復 の チヨウコウ が 現 れ る  
「かえるの 歌」を リンシヨウ す る  
新 し い キジュン を 定 め る  
セイケツ な 身 な り を 心 が け る  
海 外 に 留 学 し て ケンブン を 広 め る  
タ イ ガ を 船 で 下 る  
険 し い 山 道 を 登 る  
木 刀 を か ま え る  
広 大 な 穀 倉 地 帯 が 続 く

二、次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。字数制限のある問い合わせに答える場合、「」、「」や「」等も一字と数えます。問題文には、原文の一部を省略したところがあります。

①

学校で、君たちはたくさん友人と会うと思う。中学生時代に大切なことは、この友人と会いだ。

遊び仲間が一番の友人とは限らない。自分がすべてをさらけだしても、受け止めてくれるという確信がもてたら、その人は「心友」（親しい友ではなく、心の友だ）としての友人だね。でも、それまでがとても難しい。学校で、君は心友と会えるだろうか。

僕が思うのは、異性から好かれていても、同性に好かれていない人は友人には向かないかもしれないということだ。

その人の、同性同士の間でのふるまいに目を向けてみよう。また、しゃべるのが上手な子もすてきだけれど、聞くことが上手な子に注目してほしい。人の話に「聞く耳」をもつ友人は、とても大切だと思う。

それから、登下校がいつしよで、学校の行き帰りにいろいろな話ができるたり、お互<sup>たが</sup>いの家を行き来できるような子もいいね。

避けたほうがいいのは、傲慢<sup>I</sup>な人だろう。中学生にもなると、おごりたかぶりや横柄<sup>II</sup>さが出てくるから、これには気をつけないとね。

友だちができなくて孤独<sup>ちが</sup>だという人も、それを引け目に感じたりする必要はない。孤独と孤立<sup>ちく</sup>は違う。孤立してしまういろいろ問題も出てくるけれど、孤独はとても大切

なことだ。友人がいても孤独な時間は必要だよ。

僕も孤独なときに一番本を読んだし、つらいときは、モノを考えたり、\*洞察力が養われていくこともある。

僕が一番の心友に出会ったのは、大学に入つてからだった。だからいま、友だちがいなくて、いつも、いつか未知の人と出会えるという思いを捨てないでほしい。

夏目漱石の『三四郎』という小説のなかで、上京の車中、偶然いっしょになつたある教師風の人物が三四郎に、

「東京は□○。東京より日本は□○。日本より頭のなかの方が□○でせう」  
と話しかける場面がある。

いまは孤独であつても、将来に、だれかと出会う可能性が開かれている。君も必ず出会うだろう。

それからもう一つ。\*SNSでは、友だちがどんどん結びついて、コミュニケーションのネットワークができるけれど、そのことによつて、逆に孤立していく人もいるだろう。

またスマホにしてもパソコンにしても、それでつながつていないと自分のポジションがなくなってしまうような錯覚に陥つて、ある種のネット中毒になつてしまふことになりかねない。

「オンライン」のほうが「オフライン」よりも楽しく思えたり、もっとリアリティがあるよう思えたりすることもあるだろう。だけど、「オンラインから距離を置いてもいいんだ」

そう考えられる強さを、君にはもつていてほしいんだ。

学校で、君は勉強をしなくてはならない。

中学生になると、ある程度は自分の好きな教科とそうでない教科がわかつてくると思う。  
それでもまだ、嫌いな教科を、これから好きになることはできるだろう。高校生になつたら  
これはなかなか骨が折れるのだけれどね。

だから、もしも数学が好きじゃないとしても、あきらめることはせずに、まあまあのところまでもつていく努力をするべきだね。そして好きな教科があれば、とことん追求してみよう。

それから、国語を大切にすること。

〔③〕  
「すぐに役に立つことは、すぐ役立たなくなる」

英語も理科も数学も、それを深めるためには国語の力が不可欠だ。それには本を、とくに名著といわれる文学作品をたくさん読んでみてほしい。

## 〔2〕

「知る」ということについて考えてみよう。

〔④〕  
本来、知るということは、快樂である。僕たちは、知ることによつて宇宙や自然など、知らないことを解き明かしてきた。この力は、知的好奇心と呼ばれている。「知」というものを、僕たちは尊んでいる。

〔⑤〕  
僕は、知るということの根幹は、愛することだと思つている。

なぜなら、何かを「知る」ということは、その知ろうとするものに「関わりたい」という

ことだからだ。

よく、「何かを『知る』には、感情をはさまず、客観的かつ中立的でなければいけない」と言う人がいるけれど、<sup>(7)</sup>一切の気持ちを排した真空状態のなかで物事を知るなんてことはありえない。

何かについて知りたいと思ったら、僕たちは人に話を聞いたり、本やインターネットで調べたりする。

「知る」ためにはそうした何らかの働きかけが必要であり、その根底には愛が存在しているはずだ。

たとえば、君にも好きな人や好きなアーティストがいるだろう。僕がこの人のことを知りたい、と思うのは、好きだつたり、尊敬したりする人だ。

愛情や尊敬は、その人のことを知ることでより強まるし、強まればよりいつそう、その人のことを知りたくなる。本来「知る」とはそういうことだと僕は思う。<sup>(8)</sup>

③

ところが、「ること」と「愛すること」とが真っ二つに割れてしまうことがある。

知ることが愛することにつながっていなければ、何かを知ったところで、それが喜びになることはないんじゃないかな。

そもそも、それを知りたいとも思わないだろう。

本来、何かを知ることは快樂であり、幸せであるはずなのに、「知る」ことが「それを愛する」ことから発していなければ、むしろ「知らなくてもいい」とか「知らないほうがいい」

と思つてしまふ。

たいていの人は、知ることが愛することであると教わつていないんじやないかな。

(中略)

「なぜ学び、なぜ知ろうとするのか」と質問すると、君は「知らないとバカにされるから」

→A「知らないといい学校に行けないから」

と答えるかもしれない。そこで僕が

「知ることは愛することであり、それが自分の幸せにつながるから」

と言ふと、君は驚くだろう。

それは、君が知ることを利己的な行為<sup>\*</sup>だと思つてゐるからだ。

「こんなこと知っちゃつた、しめしめ」

「俺はあいつが知らないことを知つてゐる」

「これを知らないあいつはバカだなあ」

というときの「知る」は、愛することにはつながつていない。

→B「C 知ることが利己的だと思つていると、知ることで自分がよりいっそうこの世界を愛するよ

うになる、というふうにはなかなかならないはずだ。」

そこでは、知ろうとすることに対する愛着や「関わりたい」という気持ちが忘れられてし

まつてゐるからだね。

(姜尚中『君に伝えたいこと』株式会社自由国民社)

\* 洞察力 | | 見ぬく力、見とおす力。

\* SNS | | インターネット上でグループや仲間を作れるサービス。参加者は自

分の紹介や趣味、日記などをのせ、情報交かんを行う。

\* ネットワーク | | 網の目のような組織、つながり。

\* ポジション | | 自分のいる場所、位置。

\* オン（オフ）ライン | | コンピューターなどのネットワーク上でつながっている（つながっていないう）状態。

\* リアリティ | | 真実味、現実味。

\* 利己的 | | 他人のことは考えず、自分の利益だけを追求する様子。

問い合わせ一、―― 線部①「遊び仲間が一番の友人とは限らない」とあります。どういう人が

友人にふさわしいと筆者は考えていましたか。1段落中から三つ答えなさい。

問い合わせ二、本文中のI・IIの言葉に共通する意味として最も適切なものを次のなかから選び、記号で答えなさい。

- |           |              |             |
|-----------|--------------|-------------|
| I<br>「傲慢」 | ・ II<br>「横柄」 | ア<br>えらそなこと |
| イ<br>ウ    |              | 自慢げなこと      |
| エ         | イ            | 得意そなこと      |
| 工         | ウ            | わがままなこと     |

問い合わせ三、―― 線部②「友だちができなくて孤独だという人も、それを引け目に感じたりする必要はない」とあります。筆者はなぜそう考えるのですか。二点答えなさい。

問い合わせ四、本文中の三ヶ所の(○)には、全て同じ言葉が入りますが、空らんの中に入る言葉

を前後の内容から考えて答えなさい。

問い合わせ五、本文中のIIIの言葉の意味として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- III 「骨が折れる」
- |   |       |
|---|-------|
| ア | 努力する  |
| イ | 後悔する  |
| ウ | 苦労する  |
| エ | 気がねする |

問い合わせ六、——線部③「すぐに役に立つことは、すぐ役立たなくなる」とあります、筆者が伝えたいこととして最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 一見実用的ですが、すぐに役に立つ情報が、長い間ずっと役に立ち続けるわけではない。

イ 情報化社会において、すぐに役に立たなくなる情報が多いことは問題である。

ウ 様々ある情報のうち、得るのに時間がかかる情報にはあまり重要な価値がない。

エ すぐに役立つ情報にも、役に立たない情報にも、両方意味があるといえる。

問い合わせ七、——線部④「本来、知ることは、快樂である」——線部⑤「僕は、知る

というこの根幹は、愛することだと思つていて」とあります、これらの部分には「ること」についての筆者の考えが示されています。その考えをまとめた次の文の空らんに当てはまる語句を[2]段落中から探し、それぞれ五字でぬき出して答えなさい。

知ろうとするものに 1 という気持ちを持つて深く知ることで、より 2 が増し、喜びが得られるようになる、と筆者は考えている。

問い合わせ、——線部⑥「感情をはさまず、客観的かつ中立的」という表現と、——線部⑦「一切の気持ちを排した真空状態」という二つの表現は、だいたい同じ内容を述べていますが、このような姿勢では育つていかないと筆者が考えているものを、本文中から五字でぬき出して答えなさい。

問い合わせ、——線部⑧「『知る』とはそういうことだと僕は思う」とありますが、3段落中の の ॥ 線部 A ↗ D の「知る」について、「そういうこと」につながる「知る」には ○を、そうでない「知る」には×を解答らんに書きなさい。

問い合わせ、——線部⑨「『知ること』と『愛すること』とが真つ二つに割れてしまうことがある」とありますが、この状態が進んでしまうと、最終的にはどうなってしまうと筆者は考えていますか。本文中から三十五字以内でぬき出して答えなさい。

三、次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。字数制限のある問い合わせに答える場合、「、」

や「。」等も一字と数えます。

夕方図書館に行くと、竜司くんがきていた。竜司くんは、戦闘ロボットが表紙にのつている『ホビーコレクション』という雑誌を読んでいた。前に図書館で竜司くんを見かけたのは夏休みのはじめの特別授業を受けているころなので、もう三ヶ月も前だ。あけぼの住宅の同じ階に住んでいるのに竜司くんとはめったに会わない。クラスが違うので、学校でもあまり見かけない。どうやら竜司くんは、毎日学校へは行っていないようだった。

I

「ゲームばっかりやっていて、こまっちゃう」ときどき部屋にくると、竜司くんのお母さんがこぼしている。

「いいかげんにしな！」

「うるせー！」

いつか図書館からもどってきて、階段をのぼって四階にあがってきたとき、竜司くんたちが住む部屋から、どなり合う声が聞こえてきた。

「やめろよ！ 何するんだよ！」

悲鳴のような竜司くんの声がしたときは、わたしはあわてて、自分の部屋へかけこんだ。  
①その竜司くんが今、雑誌のコーナーにある長椅子ながいすにすわっていた。首をつつこむようにして、『ホビーコレクション』を読んでいる。わたしは驚いた。心臓が、ドクンドクンと鳴つて、顔がほてってきた。わたしは自分がおかしくなったのかと思った。いつか住宅の廊下でばったり会ったとき、ぐうぜん目が合つたことがある。そのときの竜司くんの瞳は、なんだ

かさびしい色をしていた。でも今雑誌にそそがれている目は、きっとキラキラしている。わたしはそんなふうに思えた。<sup>(3)</sup>なんだか、うれしかった。わたしだって、わくわくするようないい本をさがしたい！ そう思つて、棚と棚のあいだを歩きまわつた。でも目うつりがして、どうしてもこれという一冊が決められない。たまには、そういう日もある。今日がそうだ。ただ時間ばかりが過ぎていく。

気がつくと、竜司くんはいなくなつていた。そのときふと棚を見ると、あの雑誌がなかつた。いちばん新しい号は、表紙がよく見えるように置かれていて、借りることはできない。棚のうしろには透明などちらがあつて、開けると、中はボックスになつていて、古い号の雑誌は、借りることができのだ。ほかの人人が読んでいるのかもしれない。そう思つたが、なんだか気になつてしまつたがなかつた。

やがて館内に、終わりの時間を知らせる音楽が流れ始めた。でも雑誌はまだ、棚にもどされていない。図書館に残つているのは、もうわたしだけだ。カウンターにいた丸山さんも気がついたのか、棚の方をじつと見ていた。

「雑誌、なくなつたの？」

帰りがけにわたしは、丸山さんに声をかけた。

「ううん、あしたの朝、お掃除(そうじ)をすれば、出てくるかもしれないわ。どこかに置きっぱなしのこと、よくあるから」

丸山さんは首をふつた。けれど次の日になつても、雑誌は置かれていなかつた。棚のそこだけ、「A」空いていた。

★学校の昼休み。トイレに行つた帰りに、廊下を歩いていると、中庭に竜司くんがいた。わたしは窓の近くによつた。竜司くんは、庭の真ん中でうずくまつっていた。いつたい何をしているのだろう。

わたしは立ちどまって、ガラスのむこうに目をこらした。<sup>II</sup>するととつぜん、竜司くんが腕<sup>うで</sup>を広げた。そこから何かが、ぱっととび出した。茶色と白のまじった猫<sup>ねこ</sup>だ。竜司くんはずつと、猫が見えなくなるまでその場に立ちつくしていた。

次の日、今度は休み時間の廊下で、竜司くんを見かけた。ひとりでぼんやり、窓から外をながめていた。なんだか、転校してきたばかりのわたしみたいだつた。★

でも帰りのとき、竜司くんがわたしのずっと先を、だれかと並んで歩いていた。ふたりは曲がりかどで、手をあげて笑顔で別れた。

学校からもどると、いつものように布のバッグを肩にかけて、わたしはあけぼの住宅の玄関<sup>げん</sup>を出た。すると庭の藤棚<sup>むしろだな</sup>の下のベンチに、竜司くんがすわつていた。わたしの心臓が、またドクンととびはねた。でも、いつものようなどキドキではなかつた。それは竜司くんが雑誌を読んでいたからだ。竜司くんが手にしているのが『ホビーコレクション』かどうかはよくわからなかつた。竜司くんのところに行つて聞いてみたかつたが、そんな勇氣はわたしにはなかつた。わたしは一度門から出て、「B」一門柱のかげにかくれた。そして、しづかに首を出した。すると竜司くんが、雑誌を閉じて小脇<sup>こわき</sup>に抱え、たちあがつた。部屋にもどるようだ。わたしはあわててあとを追つた。

竜司くんのうしろ、三メートルほどに近づいたとき、わたしの足は「C」とまつた。

雑誌が図書館のものだとわかつたからだ。表紙は見えなかつたが、あの雑誌に違ひないと思つた。図書館の本や雑誌には、いろいろなものがついている。本の種類をあらわす背中のラベルや、表紙の裏のバーコードのほかに、上と下に『市民図書館』という印が押してあるのだ。

「上と下、つまり天と地に押すから、『天地印』っていうのよ」

いつか丸山さんが教えてくれた。その黒い印が、竜司くんがわきにはさんでいる雑誌に押されているのがはつきり見えた。

その夜、わたしは考えた。どうしたらしいか。雑誌を返すように、どんなふうに言えばいいのか。いっしょうけんめい考えた。

しばらくのあいだ、『ホビーコレクション』の十一月号は棚になかつたが、今日は、新しい十二月号が置かれていた。この前の号とはまた違う戦闘ロボットの表紙だ。

何日かすると、竜司くんがまた図書館にやつてきた。入つてくるなり、まっすぐ雑誌のところに行くのが見えた。そして『ホビーコレクション』の最新号を手に取ると、いつかのよううに長椅子にすわつて読みはじめた。どうしよう。わたしは本棚のあいだを、行つたりきたりした。でも、このままではいけない。さんざん迷つたあと、わたしは心を決めた。深呼吸してから、竜司くんの方へ近づいていった。<sup>(5)</sup>わたしはウソをつくことにしたのだ。

「その『ホビーコレクション』で、面白いよね。<sup>おもしろ</sup>わたしも毎月楽しみにしているんだよ。うちのクラスの清水くんも、いつもここで、それ読んでいるんだつて」

早口で一気にしゃべった。いきなり話しかけられた竜司くんは、『D』一口を開けてわたしを見あげた。わたしはそれだけ言うと、すぐにその場を離れた。<sup>(はな)</sup>火が出そうなくらい顔が熱い。丸テープルのところに行くと、しばらくそこで動けなくなつた。心臓も苦しいくらい大あはれしている。

ようやく気持ちが落ちつくと、わたしは子どもの本の棚のあいだをゆっくりと歩いた。本にかこまれていると、気持ちがだんだん落ちついてくる。やがてわたしは、本さがしに夢中になつた。ひとまわりして雑誌のコーナーにもどつてみると、竜司くんはもういなくなつていた。『ホビーコレクション』の最新号は、「E」棚にもどされていた。

それからまた何日かたつた。丸山さんと別の司書が、貸し出しカウンターにならんですわつていた。そばを通つたとき、わたしの耳にふたりの会話が聞こえた。

「行方不明だつた『ホビーコレクション』、今朝、返却ポストに入れられてたんですよ」

それを聞いて、わたしはほつとした。帰るときにわたしは、丸山さんにそれとなくたずねてみた。

「返却ポストつて、どこにあるの？」

「センターの入り口よ。図書館が休みの日や、時間外に本を返しにきたときは返却ポストに入れてね」

「はい」と、わたしは返事をした。きっと竜司くんは、わたしが知らなかつたポストに気がついて、そこに入れたのだ。でもそれから図書館でも学校でも、二度と竜司くんを見かけることはなかつた。竜司くんと竜司くんのお母さんは、あけぼの住宅から引っ越してしまつた。

(池田ゆみる『坂の上の図書館』さ・え・ら書房)

問い合わせ一、 線部I 「こぼしている」・II 「目をこらした」とあります  
が、「こぼす」・

「目をこらす」の意味としてふさわしいものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア 周りを気づかってそっと言う

I 「こぼす」 イ 心の不満をつい口に出す  
ウ 次々と流れるように話す

II 「目をこらす」 イ なにげなく見る  
ウ ぼうっと見る

エ 思いきつて告白する

問い合わせ二、 線部① 「その龍司くん」とはどのような「龍司くん」でしょうか。「その」

が指している内容を二点、かじょう書きでまとめて書きなさい。

問い合わせ三、 線部② 「首をつつこむようにして」とあります  
が、最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

うかがえますか。最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア ふざけている様子 イ 納得のいかない様子

ウ きんちょうした様子 エ 夢中になつている様子

問い合わせ四、 線部③ 「なんだか、うれしかった」とあります  
が、なぜうれしくなつたのでしょうか。最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 龍司くんがいつもどちがつていきいきとした様子に思えたから

イ 龍司くんが久しぶりに図書館に来ているのを見たから

ウ 龍司くんにみんなが知らない意外な秘密があるのを知ったから

エ 龍司くんもわたしと同じくその雑誌が好きだと分かったから

問い合わせ、——線部④「なんだか気になつてしかたがなかつた」とあります、「わたし」の心の中にどんな思いが生まれたのだと思いますか。解答らんに続くよう二十五字以内で答えなさい。

問い合わせ、★～★について、この部分にみられる竜司くんはどのような男の子だと思いましたか。そう思った理由や根拠を明らかにしながら、五十字以内でまとめなさい。

問い合わせ、「——A～Eに入る語句として適切なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア ぽつんと

イ さつと

ウ ちゃんと

エ ぽかんと

オ ひらりと

カ びたりと

問い合わせ、——線部⑤「わたしはウソをつくことにした」とありますが、それは何のためですか。二十五字以内で説明しなさい。

問い合わせ、「火が出そなくらい顔が熱い」とあります、なぜそのようになつたのでしょうか。最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 面と向かって話すことに、ひどく照れてしまつたから  
イ 堂々とウソをついてしまい、はずかしくなつたから

ウ 早口になつてしまつたが、うまく言えて安心したから

エ 一生けんめい説明したので、息が切れてしまつたから

問い合わせ、「わたし」は本が大好きな女の子です。それがよくわかるところを本文中から一文の形で二か所見つけ、はじめの五字をそれぞれ書きなさい。

二〇一七年度 桐朋女子中学校 入学試験  
(A入試) 筆記試験(国語) 解答用紙

## 驗 番 号

氏名

標目

二

# 問い合わせ

3 2 1

問  
い  
三

1

問  
い  
六

問い合わせ

1

問  
い  
八

.....

四

A  
B  
C  
D

二〇一七年度 桐朋女子中学校 入学試験  
(A入試) 筆記試験(国語) 解答用紙

受験番号

氏名

二枚目

問い合わせ

三、

問い合わせ

問い合わせ

2 1

問い合わせ

問い合わせ

問い合わせ

という思い

問い合わせ

問い合わせ

問い合わせ

問い合わせ

A  
B  
C  
D  
E

1

2